

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームうすだ愛の郷のスローガンを事務所に掲示して、毎日の朝礼や職員会議の前に職員必携を持参して経営理念の読み合わせを行い意義を高めて実践につなげている。	ホームでは法人の理念や経営ビジョンなどを基に毎年度スローガンを立てている。今年度は「報連相が当たり前にできる職場」と掲げ、全職員が意思統一して、日々の支援に取り組んでいる。年度初めに法人の全職員に配布される「職員必携」という小手帳にも法人の理念やホームのスローガン等が記載されている。また、事務所にも掲示され、朝礼や職員会議などでも唱和して実践に繋げている。新入職員については入職時のマナー研修などで法人理念も含めて理解を深めるようにしている。理念にそぐわない行動が職員に見られた場合にはホーム長が話し合いの場を設けて、正しい方向に導いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナに伴い以前の様な交流が出来ませんでした。5類に移行され少しずつ以前の様な交流が戻りつつあります。	区費を納めるとともに新型コロナ感染が予断を許さない現況の中で、可能な限り地域の人々との交流の機会を設けている。例年であればホームの夏祭りに地域住民に参加していただくと共に、キッズダンスや銭太鼓などのボランティアが来訪したり、秋には保育園児とのサツマイモ堀りや交流を行っているが、現在、自粛している。地域の人々との交流の機会が減っている中でも保育園児が作成した七夕飾りを先生がホームへ持ってきてくれたり、近所の方からの野菜のおすそ分けがあったりと、地域の人々との関わりが持たれている。市の移動図書館が、毎月、ホーム駐車場に訪れて、本好きなホームの利用者も利用し、本を選んだり借りたりしながら地域の人々とふれ合っている。また、毎年受け入れていた中学生の体験学習も自粛しているが、その生徒達が通う中学校からアルミ缶の資源回収で得た資金を基に空気清浄機の寄付を受けたこともある。将来、福祉の道を目指す大学生や専門学校生の実習の受け入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	臼田地区の「健康と福祉の集い」に参加し啓発活動を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で出された意見を職員に伝達し職員会議の場で検証してサービスに反映させている。	現在、2ヶ月に1回、利用者代表、家族代表、区長、民生児童委員、地区の消防団長、司法書士、市職員、地域包括支援センター職員、ホーム職員等が一同に会し、対面で実施している。利用状況や活動報告、ヒヤリハット・事故報告などを書面で説明し、意見・助言などをホーム運営に活かしている。会議の内容は職員にも伝えられており、また、委員の方には会議のご案内を送付する際に、前回の議事録も同封し確認していただいている。	

グループホームうすだ愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき連携を取っている。ほかに市内のグループホーム連絡会に参加して情報・意見交換をしている。	市の担当課や地域包括支援センターとは、適宜、情報交換したり、相談を投げかけたりしており、市主催の「グループホーム連絡会」にも参加して、情報交換している。地域包括支援センター主催の「地域包括連絡会」に計画作成担当者が参加し、地区内の介護施設や事業所の職員と意見交換をするともに勉強会なども行い、ホーム職員会議で必要な情報を共有している。また、介護認定更新の際には市の調査員が来訪し、利用者と面接するとともに職員がヒアリングに立ち会って情報提供し、家族からの依頼があれば更新申請や区分変更申請の代行も行っている。JA主催の「健康と福祉の集い」も昨年11月に再開され、参加している。介護相談員の来訪も今年度から再開され、2ヶ月に1回訪れ、利用者と懇談した後、その内容をホーム長に報告していただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が常に念頭に置き、会議や勉強会の場で定期的に話しをして拘束を行わないケアを行っている。夜間の施錠以外は施錠せず、職員が寄り添い見守りを行っている。	日中、玄関は開錠されており、身体拘束に当たるようなケアは行っていない。安全確保の必要性から家族の了承を得てセンサーを使用しているが、適宜、外す方向での話し合いを行っている。現在、全利用者が落ち着きを見せており、外出傾向の利用者はいないが、定時に所在確認をしている。3ヶ月に1回、ホームとして身体拘束適正化委員会を開催して、管理者、主任、ケアマネジャーで話し合い、内容を職員会議でフィードバックしている。法人として「身体拘束・高齢者の虐待防止」の必須研修があり、全職員が参加し、また、振り返りの機会として人権意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事故防止委員会や接遇委員会からの報告を職員会議等で話し合いの場を持ち、防止に努めています。また法人内の虐待防止研修会にも参加し情報を職員に伝達して共有しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要のある方には話を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約、変更時に口頭や書面での説明を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見書箱を設置して要望等は書いていただくことになっています。またご家族様には、面会時に日々の状態をお伝えしてご意見を聞き職員会議の場で伝達しています。	三分の二強の利用者が自分の意見を口頭で表わせ、職員は日常の会話の中から意見を汲み取っている。表現できない利用者については表情や仕草から読み取るようにしている。現在、家族との面会は感染対策を取りながら玄関ホールで、15分を目安に実施しており、週に1回ほど来訪する家族もいる。その際に、利用者の暮らしぶりを伝え、意見や要望を聞いている。病院への付き添いを家族にお願いしていることから、その時にも、受診前後の情報を伝え合っている。毎月、ホーム長と担当職員のコメントが添えられたホーム便りと写真が豊富に載せられたホームの新聞「うすだ愛の交差点」を家族の元へ送付しているため家族は利用者の様子を知ることができ、遠方の家族とはインターネットを使ったオンライン面会も可能となっている。ホームのブログには行事や日常の写真が掲載されており、家族や親族が利用者の様子を知ることができ、好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者には週報や法人運営会議の場で報告している。現場では職員会議や個別面談で意見や提案を聞いて反映させています。	基本的に毎月1回職員会議を開催しており、法人からの報告や各委員会・係からの報告、業務報告やケアカンファレンスを行っている。事前に議題を募り、効率よく会議を進行するようにして、会議に参加できない職員には議事録で確認してもらうようにしている。法人として人事考課制度があり、職員は前期と後期に目標管理シートに記入し、その都度ホーム長と面談をしている。また、法人としてストレスチェックも行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを活用。自己評価、目標設定を行い向上心を持って働けるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会・勉強会等に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括連絡会の勉強会に参加しています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の思いや暮らしぶりを早期に知り、本人の安心を確保するためにも傾聴しコミュニケーションを取り関係作りに努めている。		

グループホームうすだ愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みや契約時に、家族の思いや意向をお聞きして信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話し合いの他、担当ケアマネジャーや利用していた事業所から書面や口頭で情報を得て対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭に置き声掛け支援を行っています。また個々の性格や状況により入居者様主体の暮らしができるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、ご本人の様子を報告して情報を共有しています。また毎月ホーム便りやブログでも近況など報告しています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の方が自由に面会ができるようにしています。	家族から了解を得た近所の知人の来訪を毎月受ける利用者がおり、玄関ホールにて歓談している。他の利用者についても知人・友人との面会がいつでも可能となっている。新型コロナウイルス感染前は家族と馴染みの美容室やお墓参りへ行ったり、年末年始に自宅で会食をして過ごした利用者もいた。現在、感染拡大が予断を許さないことから、自粛している。そうした中、花見などの外出の際に、自宅付近を巡ってくることもある。ホームでは、ひな祭り、七夕、ホーム内での夏祭り、節分など、昔ながらの行事を大切に、生活にメリハリをつけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶、レクリエーションの時間に入居者様同士が触れ合う機会があり、お互いのユニットを往来し入居者同士が声を掛け合う雰囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族にお会いした時には積極的に声をかけてその後の様子や悩み等ないか伺っている。また他の施設に転居された場合にも連携を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どの様に生活をしたいか尋ねたり話を聞いて対応している。困難な場合には対応方法を常に検討している。	三分の二強の利用者が自分の思いや意向を伝えることができ、日常の会話やケアの中から意向を把握するようにしている。表現できない利用者に対しては表情や仕草、普段の様子との違いや家族から得た生活歴などの情報を基に推察するようにしている。普段の暮らしの中で編み物や雑巾縫い、食材の下ごしらえ、食器拭きや畑の草取りなど、好きなことやできることについて声がけをして張り合いを持てるようにしている。また、職員が気付いた情報や利用者のつぶやきはタブレット端末からケース記録に入力し、更に、申し送りノートにも記載し、職員間での情報共有を図りつつ利用者本位の支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から情報を得たり、担当ケアマネジャーや利用していた事業所などからも提供表や口頭での情報を得ている。また、普段からも本人とのコミュニケーションの中からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の有する力を共に生活する中で見つけている。毎日のバイタル測定や食事排泄などの情報を全職員が共有している。日々の変化についてはその都度職員たちに伝達している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別介護記録の他に、職員間の連絡ノートを活用し速やかな情報共有を行なっている。	職員は利用者1～2名を担当し、定期のモニタリングや必要性により家族への連絡などを行っている。介護計画の長期目標は1年、短期目標は6ヶ月で設定し、モニタリングやアセスメント、本人や家族の意向を踏まえて見直しを行っている。介護計画見直し時に家族も含めた担当者会議を行っており、家族が出席できないときには電話や書面での照会により実施している。また、利用者の状態に変化があった場合には、その都度家族へ説明をして計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスを行い、本人家族の意見を取り入れ計画を立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況観察や家族との話し合いの中でニーズを把握し、これに極力添えるように職員間で協議し、可能な範囲で柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの畑作りで散歩がてらの収穫を楽しまれている。コロナの関係で直接の交流は困難だが、七夕には、近隣の保育園から七夕飾りが届いた。		

グループホームうすだ愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医に往診または受診し、連携を取っている。	入居に際しては在宅時のかかりつけ医を継続できることを伝えている。入居前からのかかりつけ医を継続している方は現在三分の一ほどおり、基本的に家族が受診に同行している。その際にはホーム長や看護師が窓口となって情報提供票(温度版)を家族に渡し、医療機関に提出していただいている。また、月1回の協力医療機関医師の往診を受ける利用者が三分の二ほどおり、更に、職員として看護師も配置されていることから、家族や職員の医療面での安心に繋げている。歯科についても在宅からのかかりつけ医を継続しており、緊急の場合は近くの歯科医に処置をお願いすることがある。口腔ケアが重要であるとの認識から、その導入について検討しようとしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師が、協力医療機関の医師、看護師と連携をとり、報告相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナの関係で直接の面会は不可能だったが、連携室や、医師看護師と情報交換し早期に退院できるようにしている。衣類の洗濯支援も行った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた場合、家族や主治医と話し合い支援している。終末期についても、本人、家族、主治医、職員間で話し合いを持ち希望に添った対応を心がけている	法人として「重度化した場合における対応に係る指針」が決められており、重要事項説明書にも記載され、契約時に家族と利用者に説明している。利用者が重度化した場合は住み替えも含めて話し合いの場を設け、ホームでの看取りを選択した場合には協力医と連携して看護師を中心に終末期ケアに取り組んでいる。昨年度、2名の方の看取りを行ったが、一名の方については訪問看護を利用しつつ最期まで対応できたという。職員に対しては、終末期が近づいて来た際に資料を配布したり、会議で確認し合い理解を深め、看取りケアに当たっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の救急法勉強会に参加するほか、ホームでも勉強会を行い有事に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜それぞれを想定して訓練を行っている。その都度反省会も行い改善に努めている。	基本的に、春と秋の年2回、昼、夜を想定し、また、地震や火災想定での避難、通報、消火訓練を行っている。今年度も8月と3月に訓練を予定している。昨年度は消防署の立ち会いもあり、終了後には消防署員に助言を得ながら振り返りを行っている。例年、4月と10月に消防機器取り扱い業者による設備点検も受け、助言なども得ている。緊急連絡網や防災マニュアルも整備されており、水や食料品、介護用品、カセットコンロなどの備蓄もある。万が一の際には同じ法人の特別養護老人ホームへ避難することになっている。地区の区長や消防団長からの協力も得られるようになっている。2019年秋の台風19号の際には当ホームでも軽度の浸水があったが、その要因となったと思われる近くの小河川の改修も進んでいる。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気持ち良く安心して生活が送れるように一人ひとりにあった声掛けを行い対応している。入居者様それぞれに輝き、活躍されていた時期があった事を常に頭に置き尊敬心を持って対応するよう心掛けている。	職員は入職時のマナー研修やプライバシーに関する法人の必須研修を受講することによって、人権意識を高めている。現在、利用者全員が女性で、職員も全員が女性ということで同性介助ということになるが、風呂、トイレ等の介助に際しては、その都度、利用者のプライドや意向に配慮するようにしている。また、ホームの新聞やブログに利用者の日常の様子を掲載しているが、事前に本人や家族に許可を得て写真等を掲載している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が選択出来る様な声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の大まかな流れは決まっているが、その日その時に希望があれば尊重し希望に添えるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな衣服を着て頂く様にしている。また、髪の毛や髭などにも気を配り、声掛けし出来ない部分には支援している。		

グループホームうすだ愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや食器拭きなど一緒に 行っている。食の好みも聞き取り、誕生会などには本人の好みの物を作りお祝いしている。	若干名の方が介助を必要としているが、他の多くの方は自力で摂取できている。また、ミキサー食の方が数名と食材によって一口大に刻む方が若干名いるが、他の方は常食となっている。献立は法人内の4グループホームの献立担当者が交替で1ヶ月分の献立を立てている。利用者と一緒に桜餅やかきわ餅、おはぎ、誕生日のケーキや恵方巻などを作ったり、夏祭りにはスイカ割りなどを楽しむ機会がある。誕生日を迎えた利用者の希望に沿い昼食を提供しており、キッチンカーによるラーメンやテイクアウトしたお寿司などが振舞われている。利用者も力量に合わせ、フキやタケノコの皮むき、稲荷ずしづくり、干し柿づくりなどのお手伝いをしている。ホームの畑ではサツマイモを栽培しており、食事の際に利用者へ提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常食、きざみ食、ミキサー食等、希望や状態に応じて対応している。飲み物の種類も色々と揃えている。苦手なものは他の食事に代替えもしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きができる方、声掛けすれば出来る方、うがいができる方など見極め毎食後行っている。歯磨きができない人は、クロスガーゼを使って清潔にしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導をしながら排泄パターンをつかみ、パット等無駄に使用しないように職員会議等で話し合いをもっている。	トイレでの排泄が大切であるという認識の下、利用者は状態に応じて布パンツやリハビリパンツにパットを使用しており、オムツを使用している方は現在いない。職員は排泄パターンや表情、仕草などを基にトイレへ誘導している。現在、自立している方が数名おり、その他の方は一部介助で、全介助の方はいない。タブレット端末から排泄時の状況が入力できるようになっているが、別途、手書きで排泄表を作成し、職員が排泄状況をすぐ確認できるようにしている。介護用品についても家族に相談しつつ、利用者に合ったものを使用している。トイレは車イスでも介助できるスペースを確保しており、各ユニットに3ヶ所ずつ設置されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や飲むヨーグルトなどの乳性品を取り入れている。さつまいもやごぼうなど食物繊維の豊富な食材も取り入れ自然排便を期待している。		

グループホームうすだ愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めてしまっている所もあるが、希望により変更も行い温度やジャグジー等で限られた中での希望に添って支援している。	基本的には週2回の入浴で曜日を決めているが、希望に応じて曜日や回数の変更が可能となっている。利用者の状態に応じて見守りやシャワーチェアへの移乗に際しては、職員2名での支援を行い、安全かつゆくりと入浴できるようにしている。その日の状態により入浴を拒否される利用者に対しては無理強いすることなく、職員を変えたり、時間をずらしたりして声掛けし、場合によっては翌日に入浴してもらえようとしている。新型コロナウイルス感染拡大前は、家族と一緒に日帰り温泉に出かけた利用者もいたが、家族との外出が制約を受けているため現在は自粛となっており、再開が待たれるところとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具を天日干ししたり、リネン交換し気持ちよく休めるように支援している。安心して休めるように声掛けも行っている。日中は、ホールのソファを利用される方もいらっしゃる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにまとめてあり、いつでも確認できるようにしてある。薬が変更になった後は、変化の様子を記録に残し、情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションを工夫したり、季節の行事を取り入れている。食事や洗濯、掃除など得意な事、出来る事を役割分担している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見ドライブや、散歩など戸外へ出掛けられるように心がけている。誕生日の方は個別に外出し、特別な一日を楽しんで頂けるよう工夫している。	新型コロナ感染防止の観点から、現在、外食は自粛しているが、ユニット毎の外出や中庭のテラスでの活動をしている。外出時、自力歩行の方、車イス使用の方、歩行器や杖を使用する方など、一人ひとりに合わせて対応している。年間行事予定に外出も組まれており、花見や菜の花、バラ、コスモスなどの見物にドライブがてらユニットごとに出かけている。日常的にはホームの周りを散歩したり、広いテラスで外気浴や食事、喫茶なども行い、利用者に季節を感じていただいたり、ストレスを発散していただいている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解しているが、家族の希望で所持されていない事が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話があると、受け継ぎゆくりと話せるようにしている。また、携帯電話を所持されている方もおり自由に掛けたりされている。		

グループホームうすだ愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と共に掃除等行うことで気持ちのよい環境づくりに心がけている。季節の花を飾り工夫している。	天井が高く開放感がある。また、今まであった量のスペースがフローリングに改修され、ソファや机、椅子が置かれている。ホールにはテレビがあり、季節を感じさせるアクティビティー折り紙や貼り絵の作品、塗り絵などが飾られている。空調はエアコンと床暖房、パネルヒーターで調節され、空気清浄機も置かれて、1年を通して快適に過ごすことができる。また、トイレは1ユニットに3ヶ所設置され、十分なスペースがあり使い勝手も良い。浴室はユニットバスになっており、エアコンや床暖房で温度調節ができるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室などでお茶を飲みながらゆっくり過ごしていただく事もある。また、気の合う入居者様同士が過ごされている際はその空間を壊さないようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の意向を取り入れて対応している。使い慣れた家具を持ち込んでいる居室もあり、写真や花なども置かれている。	両ユニットの居室の間取りや設備は多少異なるものの、収納にはクローゼットやハンガーラックがあり、空調はエアコンとパネルヒーターで調節できるようになっている。居室毎に花木の名前がつけられており、その入口上部には関連した絵が掲げられて利用者にわかり易くなっている。持ち込みは自由で、入居前に使用していた衣装ケースや机、イス、鏡台を置いたりしている居室があったり、家族写真や誕生日の色紙などを飾っている居室もあり、利用者が穏やかに暮らしていることが垣間見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂、居室には絵や名前がありご自分の部屋だと分かりやすいように工夫している。		